

## 3 資料調査研究プロジェクト

### [概要]

歴博では、所蔵資料を研究に広く有効に利用できるように、目録情報や画像などの基礎データを調査・整理し、資料目録や資料図録をはじめとする多様な形態で公開することを目的とした資料調査研究プロジェクトを、計画的に進めている。本年度は、「棟梁鈴木家資料」と「縄文時代資料」をプロジェクトにより調査した。

また、館蔵資料図録13『生田コレクション鼓胴』を刊行し、同コレクションの資料情報の公開を推進した。

資料担当 工藤 航平

### [各プロジェクト]

#### (1) 「棟梁鈴木家資料」2022～2024年度 (研究代表者 工藤 航平)

##### 1. 目的

棟梁鈴木家資料は、徳川幕府小普請方支配御屋根方棟梁を務めた鈴木家に関する資料群である。幕府の建築工事は、主に表向を管轄した作事方と、奥向を管轄した小普請方の二役所によって行われた。作事方、特にその頂点にいた大棟梁の資料が多く伝来し知られているなかで、小普請方かつ現場を取り仕切った御屋根方棟梁の資料は、幕府職制や具体的職務等を解明する上でも資料的価値は高い。本資料群は、絵図72点、文字史料8点、畳板1組から構成されているが、全資料の資料情報は明らかにされていない。

本プロジェクトにおいては、本館所蔵の棟梁鈴木家資料の調査・整理、全資料の写真撮影および基礎的なデータ作成を行い、資料図録を刊行し、その資料情報を広く公表する。

##### 2. 経過

昨年度に引き続き、文字史料の翻刻、絵図のトレースを行い、刊行のための作業を実施した。また、それらをもとに資料の分析をすすめた。

##### 3. 成果

文字史料の翻刻の結果、部分的にはあるが、御屋根方棟梁の職務内容の具体相が明らかとなった。また、トレース図を作製したことで、屋敷構造の理解を深めることができた。

##### 4. 研究組織 (◎は研究代表者)

◎工藤 航平 本館研究部・准教授  
岩淵 令治 学習院女子大学・教授  
小粥 祐子 崇城大学大学院・准教授

#### (2) 「縄文時代資料」2022～2026年度 (研究代表者 中村 耕作)

##### 1. 目的

本館は設立以来多くの考古資料を収集・保管してきた。これらの資料を広く公開し、展示への利用や共同研究における利用を推進するために館蔵資料の調査・整理・記録作業を行ない『国立歴史民俗博物館資料図録』を刊行してきた。これまでに、考古資料として、北海道の縄文時代資料を収集したコレクションの図録である『1 落合計策縄文時代遺物コレクション』(2000年度)、日本各地出土の瓦の図録である『4 瓦コレクション』(2005年度)、弥生時代の青銅器を扱った『6 弥生青銅器コレクション』(2008年度)、『8 古墳関連資料』(2011年度)、『11 亀ヶ岡遺跡・是川遺跡縄文時代遺物』(2014年度)、『12 槻の木遺跡出土品』(2021年度)を刊行してきた。

本プロジェクトは引き続き、縄文時代・弥生時代・古墳時代の館蔵考古資料の調査、整理をし、基礎的なデータの収集及び実測図の作成等を行い、その成果をまとめた図録を刊行することによって、その資料の内容を公表することが目的である。2022年度からは、青森県小渡遺跡の出土品の整理を開始した。縄文時代後期前葉の環状列石や再埋葬をもつ特徴的な文化の基盤となる土器・石器・石製品・土製品等のデータ化は多くの研究に資すると考えられる。

## 2. 経過

前年度に引き続き、青森県小渡遺跡出土資料（A-226）を整理対象とした。当資料群の位置づけを図るために本年度から開始した歴博共同研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」と連携し、今後の資料整理の方向性を定めた。本年度は、土器の接合・修復および3Dデータ作成とそれにもとづく実測原図の作成を進めた。

## 3. 成果

接合作業の結果、全体像を検討できる資料が増加した。従来型の実測図や写真による資料提示に加え、3Dデータの作成により、立体的な検討が可能となる。

## 4. 研究組織（◎は研究代表者）

◎中村 耕作 本館研究部・准教授  
藤尾慎一郎 本館研究部・教授  
山田 康弘 東京都立大学・教授  
阿部 昭典 千葉大学・教授